10・15回出場選手を表彰

日頃の練習の成果が実を結び、今大会で10・15回の出場を果たし、表彰の栄に輝いた選手の皆さんを紹介します。

また、選手の皆さんに感想を伺うと、「これからも練習をかさね頑張っていきたい。」と語ってくれました。

15回出場選手（敬称略）

原方
鵜澤　巌

原方
鵜澤政幸

二又
布施廣志

10回出場選手

芝崎
宇井正敏

宝米
土屋英夫

宝米
土屋高宏

入
川島敏彦

白磯
鵜之澤常吉

白磯
川野昌久

白磯
向後英統

自チームの選手を見守る（第１中継所）

駅伝大会の経過

第1回大会は、「建国記念の日」の祝賀の意味をもって、昭和43年2月10日に行われました。

コースは、役場（スタート）――富下倉庫――篠本二区公民館（折り返し）――役場――関十字路（折り返し）――役場（ゴール）という全長26・4㎞、8区間で行われました。

また、参加チームは11チーム（一般7・中学生4）で総合優勝は、中学生陸上Aチームでした。

その後、昭和50年以降は現在のコースに変更し行われています。

走れる限り参加したい

実川　通（辻）

私は毎年、大会の2ヶ月前から練習を始めています。今年は、私が勤めから帰ると、中学校陸上部の長距離をしている2年の娘が、「お父さん、今日は一緒に走ろう。」と、声をかけてきました。一緒に走ることによって、親子のコミュニケーションを持つことが出来ました。

今年は、一般28チームが参加。我が辻チームは2チームが参加し、Aチームが4位、Bチームが20位でした。

私はAチームの第2区（3㎞）を走りました。第1区の走者からタスキを受け、2㎞位過ぎたころから、疲れと風のために足が前に出なくなって来たのです。その時、沿道で応援している人達からの「ガンバレー。」の一声に力づけられ、タスキを第3区の走者に渡すことができました。

私は、今年40才を迎えますが、駅伝大会には17回出場しました。今後も、健康に留意して、走れる限り参加したいと思っています。